

昭和村松山地区調査報告書

獨協大学大竹ゼミ昭和村班

1. はじめに
2. 福島県昭和村の位置と概要
3. 松山地区の現状
 - 3.1 松山地区の人口
 - 3.2 松山地区の資産
 - 3.3 松山地区の作業・活動
 - 3.4 松山地区の資産の管理
 - 3.5 産業
 - 3.5.1 からむし織の概要
 - 3.5.2 かすみ草の概要
 - 3.6 資源
 - 3.7 松山地区の暮らし
 - 3.7.1 インフラ面
 - 3.7.2 交通情報
 - 3.7.3 公共施設
 - 3.7.4 積雪
4. 松山地区の課題
 - 4.1 高齢化及び人口減少
 - 4.2 資源
 - 4.3 交通のアクセス
5. 今年度の取り組み
 - 5.1 第一回現地調査
 - 5.2 「ふささら祭り」のお手伝い
6. これからの活動
 - 6.1 松山の魅力を発信
 - 6.2 農家民泊マップの作成
 - 6.3 他地域の成功例を調査
7. 終わりに

1. はじめに

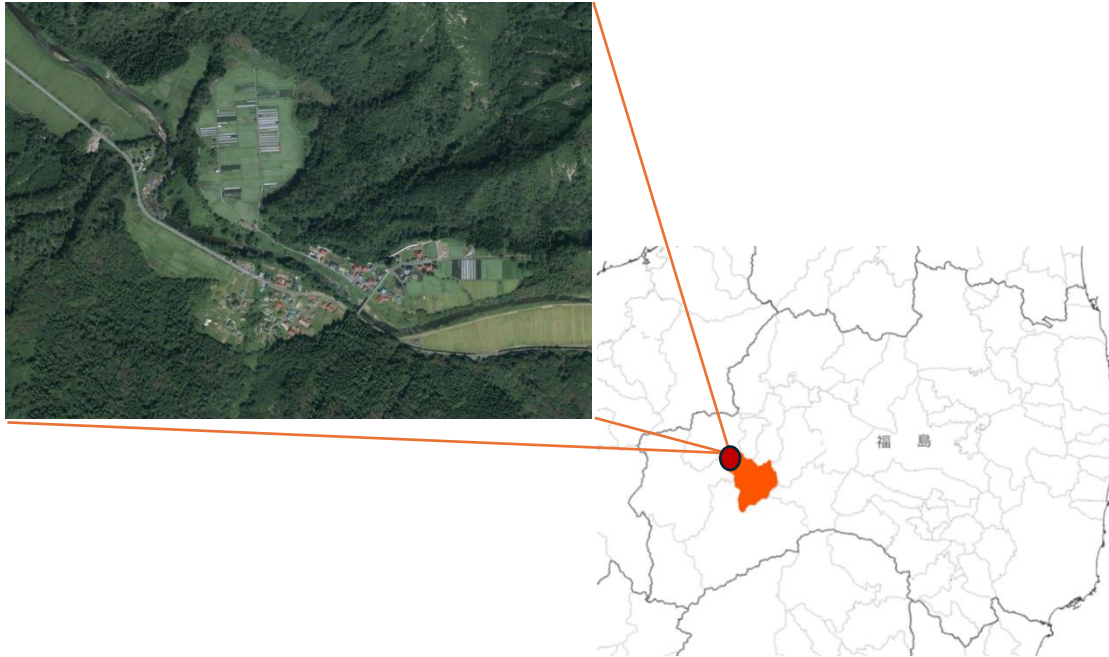
昭和村松山地区を担当する「大竹ゼミ昭和村班」は、徳田夏実（代表：国際環境経済 3 年）、原田奈穂（副代表：国際環境経済 3 年）、羽賀瑛海（国際環境経済 3 年）、下田歩美（国際環境経済 3 年）、坂齊優季那（国際環境経済 2 年）、池田恵太（経済 2 年）、駒宮新（経営 2 年）、山口哲史（経済 2 年）、中村健太（経営 2 年）、竹田美南（国際環境経済 2 年）、小坂舞夏（国際環境経済 2 年）井上菜乃羽（国際環境経済 2 年）の計 12 名からなるチームである。

2024 年度から昭和村松山地区での活動が開始、その経緯として昨年、本学ある草加市の「ふささら祭り」において、草加市と姉妹都市となっている福島県の昭和村の方とお話する機会があり、昭和村でも大学生事業を開催して交流を深めたいとの合意に達したことから今回のマッチングが成立した。

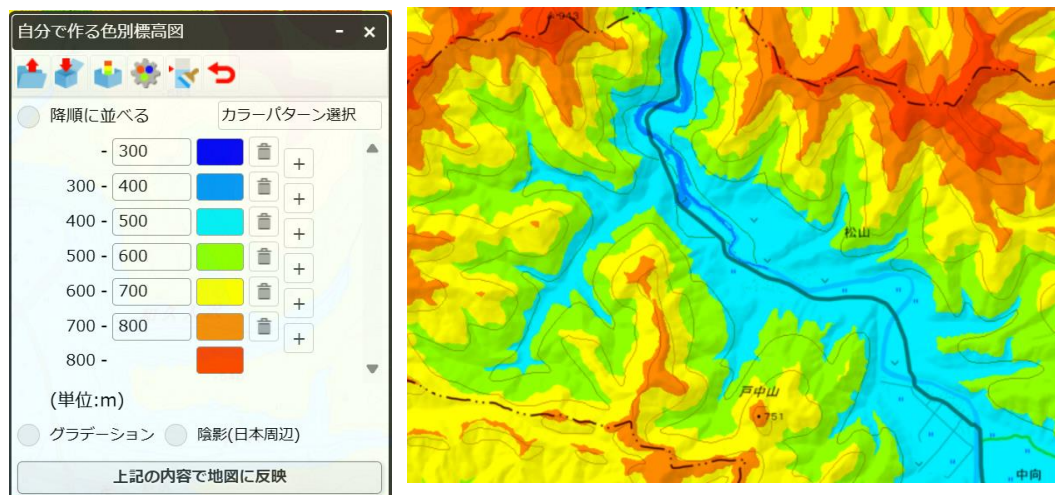
2. 福島県昭和村松山地区の位置と概要

松山地区は昭和村の北端に位置、会津若松市の中心地から国道 401 号博士トンネルを経由し約 1 時間の距離にある。標高は約 400～700m の高冷地であり、山菜やキノコなどの豊かな恵みがある。日本海型気候で、盛夏は短く 11 月中旬には初雪、12 月からは本格的な積雪時期となり、最大積雪深は 150～250cm で 3 月頃まで続く。

松山地区は標高 400～700m の高冷地にある。周囲は急峻な岩山で囲まれ、山菜やキノコなどの豊かな恵みがある。集落の中央を野尻川が南北に横断し、その河岸段丘に居住地と農地が開け、農地は水田が約 13ha、畑が約 15ha あり、水田は有限会社グリーンファームと 3 戸の農家で作付けされ、畑はカスミソウを中心にソバ、アスパラガス、トマトなどが 1 集落営農組織と 7 戸の農家で作付けされ販売されている。野生動物も生息しておりヤマジノホトトギスやテン、ツキノワグマなどが生息している。



資料 1 松山地区上空写真と昭和村の位置



資料 2, 3 松山地区の標高図とその指標

3. 松山地区の現状

3.1 松山地区の人口

松山地区では、人口減少が進むとともに極端な少子化が問題となっている。

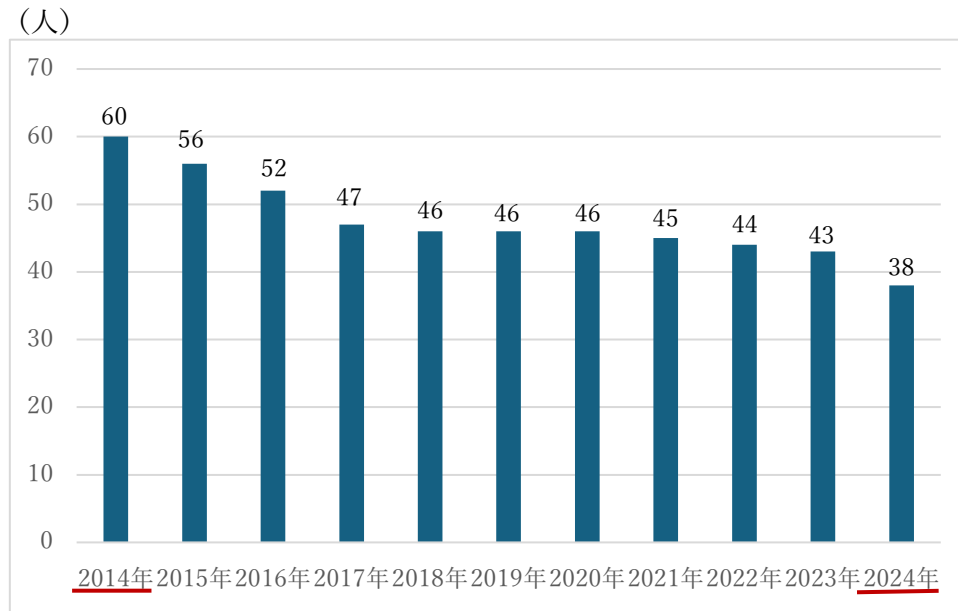


図1 人口の推移

図1を見ると2014年から2024年の10年にかけて総人口は60人から38人に落ち込んでいる(36.67%減少)。

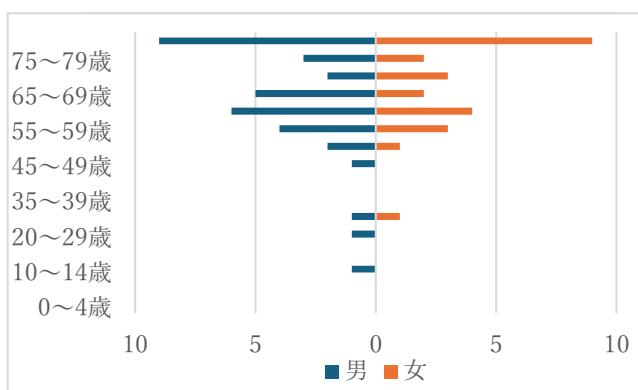


図2 年齢別人口割合(2014年)

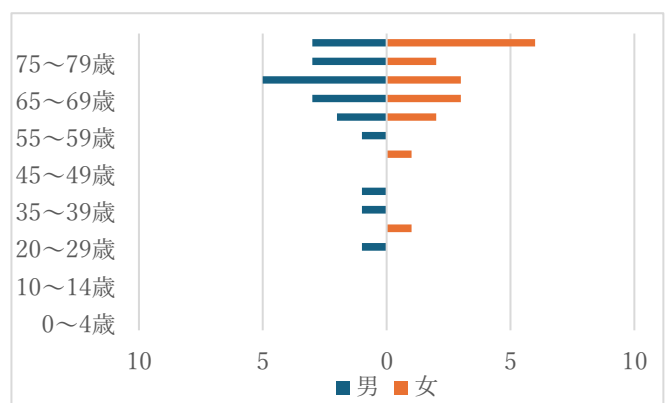


図3 年齢別人口割合(2024年)

図2, 3からはそれぞれの年代の人がそのまま持ち上がり、75～79歳の人が亡くなりつつあることで人口も減少していることがわかる。

3.2 松山地区の資産

松山地区の資産は、以下の通りである。

- ・施設：地区公民館、住吉神社、倉庫、農器具格納庫など
- ・広場や公園：バス停前、観音堂前花壇、地区公民館前広場、住吉神社前広場
- ・土地や山林等：公民館敷地、山林（旧共用地、旧牧野利用農業協同組合）
- ・物品：公民館備品、大型・小型トラクター、普請用資材
- ・その他資産・財産：農地（6ha）、史跡

◦史跡や遺跡は形のある物のみではなく、長い歴史の中で育まれた助け合いの精神や食文化が松山地区の貴重な資産である。

◦上記の資産は、住民によって維持・管理される。

◦住民の減少・高齢化により地区の資産の管理も難しくなりつつある。

3.3 松山地区の作業・活動

現在、松山地区で行われている活動や会議は以下の通りである。

- ・集会や会議：地区定例総会、地区役員会、集落戦略運営委員会など
- ・農作業の共同作業：草刈り、ソバ種まき、電気柵敷設・撤去など
- ・祭り・イベント：住吉神社例大祭、山神講、観音講、歳ノ神、新そば祭り
- ・回覧板など行政連絡：回覧板、戸走り制度（月2回）

 火防督励 ：火の番（3～5月の節句まで。消防団が広報）

◦新そば祭りは近年つくられた祭り。住民同士のコミュニケーションの場となっている。

◦戸走り制度は、役場や区からの文書を当番で担任地区内に配布する制度。2組に分かれて実施され、1組は居平・沢向・西本田地区、2組は川向・上原地区を担当する。「戸走り番帳」が回ってきたら義務を務め、終了後次の人に番帳を回す。また戸走り制度には住民の機嫌を伺う役割があり、健康状態を確認することも重要な意義のひとつである。

◦道路、水路、公共施設周辺などの維持・管理は利用者や地元住民、営農生産組合が維持を行っている。

3.4 産業

3.4.1 からむし織の概要

「からむし」とは、別名「苧麻（ちょま）」または「青苧（あおそ）」と呼ばれるイラクサ科の多年性植物で、昭和村では古くから栽培され、越後上布や小千谷縮布の原料であり、換金作物として重要な地位を占めていた。現在も栽培が継承されている。

からむしの栽培は毎年5月下旬のからむし焼きから始まり、7月下旬から8月中旬にかけて刈り取りと苧（お）引き、その後の苧績（おう）みまで、すべてが手作業による貴重な文化遺産である。からむしは弾力性があり、通気性、吸湿性に優れ肌触りが良く、原麻は薄くしなやかで細く長く裂くことができる。

昭和村ではからむし織体験生（織姫・彦星）事業を行っている。目的は交流人口と定住人口を増やし、「からむし織」を広く知ってもらうことである。からむし織と山村生活に興味のある男女を対象（第一期体験生のみ35歳以下の女性、現在は男性もいる）とし、体験生は指導補助や各自のテーマに基づき、からむしを研究している。体験期間は毎年5月連休明けから翌年3月末までの約11か月間。からむしの畑作業から生活工芸体験まで幅広く指導を受けることができる。体験生の募集は新聞や雑誌などの広告によって行い、都心部の女性を中心に反響がある。

3.4.2 カスミソウの概要

昭和村のカスミソウはおよそ30年前から栽培が始まり、豊かな自然環境を活かし生産量・品質ともに全国1位となっている。カスミソウは6月下旬～11月下旬にかけて栽培・収穫され、ハウスを解体しその年度のカスミソウ栽培は終了する。市場から信頼される品質と安定的な出荷を目指している。販売金額は近年では概ね3億5000万円以上で推移しており、生産者によっては1シーズンで2000万円前後の収入をあげている方もいらっしゃるとのこと（JAのデータより）。また夏秋のカスミソウの出荷量と販売額は日本一である。カスミソウは花の中でもメインよりも添え花として扱われることが多く、安定供給が求められる。そのなかで昭和村の集出荷貯蔵施設は花の鮮度・品質を保つのに重要な施設となっており、施設には荷受、出荷作業場だけでなく雪室が備わっている。この雪室は特別豪雪地帯という環境から、冬に積もった雪を利用しカスミソウを出荷するまでの間予冷をする施設で、雪が約3,000平方メートル（トラック約300台分）ありカスミソウの鮮度を保つために必要不可欠な施設となっている。

現在は新規就農者を対象に「かすみの教習所」を行っており、役場職員・JA 会津よつば職員が主体となって村での暮らしや花の基礎知識、補助金の申請について学ぶ機会を設けている。

国の支援

【就農準備資金】

就農に向けて必要な技術等を習得する研修期間中の研修生に資金を交付。

対象者：就農予定時に 49 歳以下の者

交付額：12.5 万円/月（年間 150 万円）を最長 2 年間

【経営開始資金】

次世代を担う農業者となることを目指し、新たに経営を開始する者に資金を交付

対象者：独立・自営就農時に 49 歳以下の者

交付額：12.5 万円/月（年間 150 万円）を最長 3 年間

3.5 資源

【美しい自然環境】

①白沢

写真 1 はいずれも白沢の支流赤沢にある。

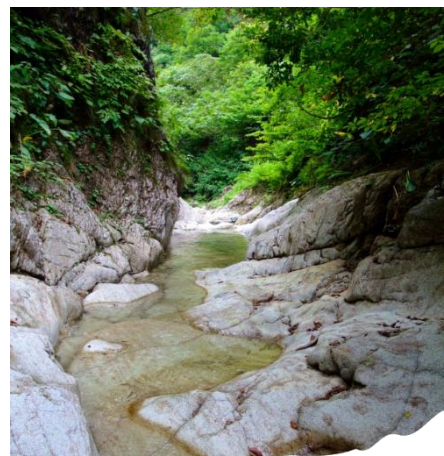
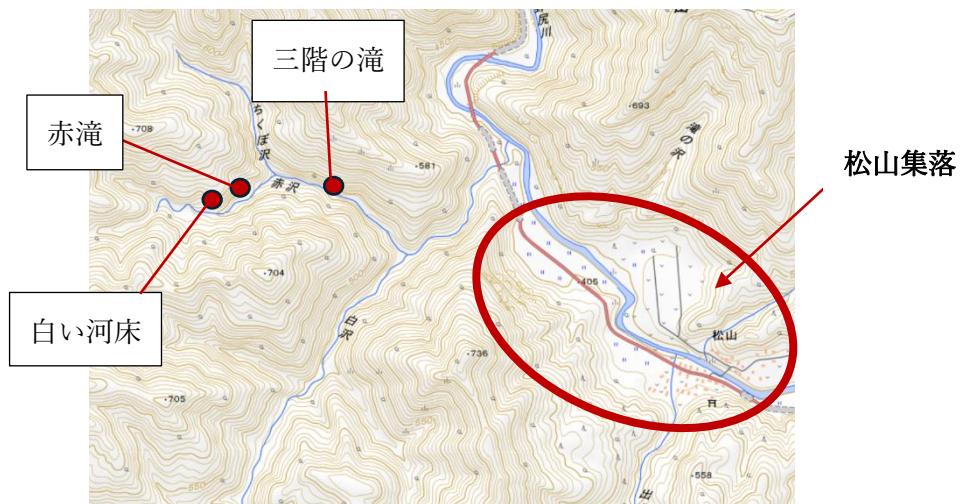


写真 1 左から「三階の滝」「赤滝」「白い河床」

位置は松山集落の北西の山奥であり、険しい場所にあるため現地調査では訪れることができなかった。



資料4 「三階の滝」「赤滝」「白い河床」の位置

②白銀の世界（雪）



写真2 野尻川の橋からの風景



写真3 佐々木家前

昭和村松山地区は特別豪雪地帯であり、毎年2m近くの積雪がある。この積雪で木にも積もり、村全体が白一面になる様子は夏とは別世界であった。

【建物】

佐々木邸

室町時代に名主として入植。江戸時代に火災で焼けたが、再建された。2023 年当主秀英氏の逝去により、520 年余の歴史の幕を閉じた。屋敷は集落を見渡す小高い位置にあり、松山集落はまとまりがいいという評価はこうした佐々木家を中心とした暮らしが長く営まれてきたこともその一因と思われる。佐々木邸は貴重な村の文化財でありシンボルであるため保存が求められているが、老朽化がかなり進んでいるため保存のための工事をしたとしても多額の費用がかかるとされる。



写真 4 佐々木邸



写真 5 佐々木邸内の屏風

3.6 松山地区の暮らし

3.6.1 インフラ面

水道・電気・ガスは全世帯に通っている。情報通信網は令和 5 年度に村内公共 Wi-Fi が整備され、ほぼ全域で利用が可能となっている。

3.6.2 交通情報

会津若松市の中心部から国道 401 号博士トンネルを経由し 1 時間ほど。北は JR 只見線 会津川口駅がある金山町に、皆見は会津線会津田島駅がある南会津町に通じている。公共交通機関は、会津バスが 1 日 3 往復、村営生活バスが会津田島駅に 1 日 2 往復運行している。村内の移動は AI オンデマンドバス（からむんバス）が利用可能。

からむんバスとは、定められた運行範囲・運行時間に利用者のニーズにあわせて運行する乗り合いバスのことをいう。このオンデマンドバスの仕組みにさらに AI（人工知能）の力を加えることで、乗り合わせる際の配車やルート最適化を行い、無駄なく運行を行うバスのことをいう。運行時間は 8:00～17:00 で、村民は 300 円、村外の方は 500 円で利用が可能。予約は電話、または Web アプリからも予約が可能。

からむんバス利用の流れ（電話の場合）

① 予約センターに電話し、利用登録を行う



②乗車予約



③予約した停留所で乗車



④予約した停留所で降車

3.6.3 公共施設

松山公民館は 2016 年に宝くじ助成金と村補助金を活用して新設され、住民の集会所、村の各種事業の海上として活用されている。災害時の避難場所にも指定されている。2023 年にはエアコンと FF 灯油暖房が整備され、夏冬快適な環境で利用できるようになった。



写真 6 松山公民館外観

3.6.4 積雪

昭和村松山地区は特別豪雪地帯であるため、住民は毎年冬に雪かきをする習慣がある。積雪量が2 m近くあるため、除雪車やショベルカーを用いて除雪を行う。



写真7 除雪車



写真8 除雪している様子

4. 松山地区の課題

4.1 高齢化及び人口減少による担い手不足

3.1 松山地区の人口 で示した通り、松山地区での喫緊の課題は人口減少と極端な高齢化による担い手不足がある。10年後には高齢化率が79.2%と高い水準となることが予測されており、集落住民の極端な高齢化と人口減少は生産人口の減少と農業従事者の減少を著しく進め、住民同士の連帯意識や意思疎通の希薄化、就農意欲の減退を招いている。また地区の資源・財産の維持も人手不足と高齢化による体力の限界により難しくなりつつある。

4.2 資源

自然景観や自然資源はもちろん、祭りやイベント、伝統行事などが現在の松山地区の文化を形作っており、資源が豊富にあることがわかったがそれを活かすことができていない。また松山地区のシンボルである佐々木邸は改修と維持に膨大な費用がかかる。

4.3 交通のアクセス

表 1 主要施設までの道のりと所要時間（地区の中心部から）

主要施設	道のり（km）	所要時間（分）		
		徒歩で	バスで	自動車で
市役所・役場まで	7.2	110	10	10
小学校まで	7.7	115	12	12
医療施設・病院まで	8.2	120	15	15
普段買物する場所まで	7	100	10	10
近くのバス停まで	0	5	—	—
保育所	7.3	110	10	10
郵便局（金融機関を含む）	2	30	3	3

主要施設までの道のりと所要時間は表 1 のとおりである。医療施設・病院までは自動車で、15 分とかなり遠い。また高齢化が進行していくなかで医療施設が近くにならないことは不安要素のひとつである。その点前述のからむんバスは有効であると考えられるが、乗車まで時間がかかることや手間なども考慮すると自動車は必要不可欠である。

5. 今年度の取り組み

5.1 第一回現地調査

第一回現地調査は8月9・10・11・12日に松山地区長の佐々木氏、福島県地域振興課の方々に同行していただき、表2の調査行程表により松山地区の現地調査を実施した。

表2 調査行程表

時程	行程
8月9日（金）	
9:04～12:30	東武東上線・会津線・野岩鉄道 特急リバティ会津113号（会津田島行） 春日部発～会津田島着
12:30～14:00	田島町ヨークベニマルにて買い出し、移動
15:15～15:45	オリエンテーション（自己紹介、日程等打ち合せ）
15:45～17:00	地域散策
17:00～18:30	自由時間
18:30～20:00	入浴（せせらぎ荘）
20:00～22:30	交流会（公民館）
22:30～23:00	後片付け、就寝準備
23:00	就寝
8月10日（土）	
7:00	起床
7:00～8:00	朝の準備
8:00～9:00	朝食
9:00～12:00	自然観察（織姫の方々と交流）
12:00～13:30	昼食
13:30～16:00	自然観察
16:00～19:30	郷土料理体験（夕食）
19:30～21:00	入浴（せせらぎ荘）
21:00～22:30	星空観察（未実施）
23:00	就寝

8月11日（日）	
7:00	起床
7:00～8:00	朝の準備
8:00～9:00	朝食
9:00～12:00	集落点検（カスミソウ、ソバ、野菜など）織姫同行
12:00～13:30	昼食
13:30～17:00	集落点検（昔から伝わる「手わっさや暮らし」）
17:00～19:30	情報交換会
19:30～21:00	入浴（せせらぎ荘）
21:00～23:00	自由時間（花火）
22:30～23:00	就寝準備
23:00	就寝
8月12日（月）	
7:00	起床
7:00～8:00	朝の準備
8:00～9:00	朝食
9:00～12:00	川遊び
12:00～13:30	昼食
13:30～14:00	お別れの挨拶
15:30～17:48	自由時間
17:48～20:29	東武東上線・会津線・野岩鉄道 特急リバティ会津154号（浅草行） 会津田島発～春日部着・解散

また、参加メンバーは表3の通りである。

表3 第一回現地調査メンバー表

構成員	ふりがな 氏名（学年）
	とくだ なつみ
	徳田 夏実
	3 年
	はらだ なほ
	原田 奈穂
	3 年
	はが えいみ
	羽賀 瑛海
	3 年
	しもだ あゆみ
	下田 歩美
	3 年
	いけだ けいた
	池田 恵太
	2 年
	こまみや あらた
	駒宮 新
	2 年
	さかさい ゆきな
	坂齊 優季那
	2 年
	こさか まいか
	小坂 舞夏
	2 年

【1日目】

春日部駅に8:30に集合し、約3時間かけて埼玉県の春日部駅から福島県の会津田島駅に移動、午後からは4日間分の買い出しなどを行い、その後地域散策をした。地域散策の際には、生産者直売所を訪れ東京や埼玉では考えられないほどの低価格で新鮮な野菜が販売されていた。実際にこちらでトウモロコシを購入させていただき、蒸していただいた。新鮮で甘く大変おいしいトウモロコシであった。



写真9,10 生産者直売所とトウモロコシを食べる様子

【2日目】

自然観察を中心に活動を行った。ガイドの鈴木さんが松山地区の周辺の自然環境についてや、昔からの建築物についての説明まで幅広くガイドして下さった。

松山地区周辺には漆の木（写真 11）があり昭和初期に樹液が採取されていたが、現在松山に残っているのは数本に過ぎないという。村の中心にある観音堂は、子安観音、妊婦の安産、幼児の無事成長を守護するという観世音菩薩で、堂内もきれいにしており住民に大切にされていることがよくわかる。また川の向かいには三嶋神社（写真 12）があり祠は小さいがよく管理されている。参道には紫陽花、入口には赤くきれいな鳥居が建てられていた。松山地区ではカスミソウとソバが主要な産業となっており散策途中で織姫体験生の三名と合流し地域散策を行った。織姫の方々には織姫になったきっかけや現在の活動内容などのお話を聞かせて頂き、交流を深めた。そのほかにも遺跡や史跡など幅広く学んだ。夕食には郷土料理をつくった（写真 13）。調理の際には地元のお母さま方にご協力いただき、青しそを使った焼きおにぎりから地元野菜を使ったスープやおかずまで、さまざまな料理を調理した。



写真 11 漆の木



写真 12 三嶋神社



写真 13 郷土料理体験の様子



写真 14 鈴木さんの説明を聞く様子

【3日目】

松山地区の農業と歴史について学んだ。私たちが訪れたときカスミソウは収穫の終盤で、2棟のビニールハウスのみでカスミソウが育てられていた。昭和村のカスミソウは夏から秋にかけて栽培され、日本一持ちが良いと好評だそう。松山地区では積雪によりビニールハウスが潰れてしまうため、毎年11月頃には片付け翌年にまた建てる。他の地域とは違い建てっぱなしということができないため、ハウスを建てる・撤収する作業が大変だとおっしゃっていた。目標は100年産地となることだそうです。

午後は公民館に戻り、耕作放棄地であった場所にカスミソウやソバのための開拓を行った際の画像を見たり、漆で作られた蠟燭（写真16）や組み木（写真17,18）を実際に見せて頂いたりして、松山の産業や文化について学んだ。



写真15 カスミソウについて学ぶようす



写真16 漆の蠟燭



写真17 組み木について学ぶ様子

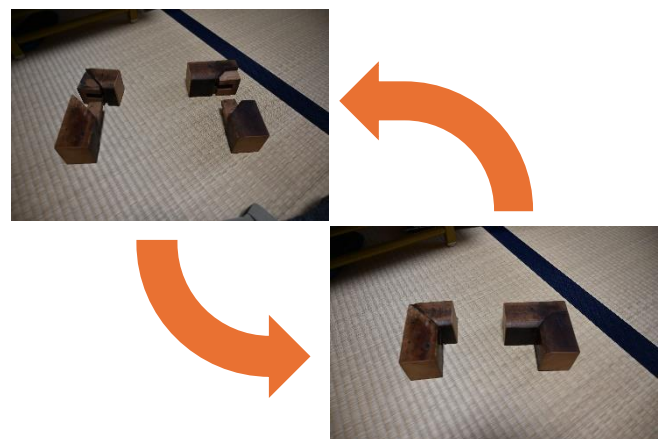


写真18 組み木のしくみ（囲炉裏）

【4日目】

最終日は午前だけの活動で午後はほぼ移動となった。午前には川遊びをして、昼食のあとは昭和村の美しい自然を写した写真などを見させていただいた。アルバムには今回立ち入ることができなかった白い河床や三階の滝などの美しい風景も収めてあり、この目で見てみたいと思うほど美しかった。



写真 19 川遊びの様子



写真 20 とった魚



写真 21 集合写真



写真 22 特産品をいただく様子

お別れの際には、昭和村の特産品をいただいた（写真 22）。そのなかでもからむし羊羹は特に好評で、次回また何うときに購入しようと思う。

5.2 「ふささら祭り」のお手伝い

11月2日に草加まつばら綾瀬川公園。草加松原遊歩道、松原団地西口公園で行われた「ふささら祭り」に草加市の姉妹都市として昭和村が出店し、徳田夏実（3年）と坂齊優季那（2年）が客引きや会計などのお手伝いをさせていただいた。

昭和村の基幹産業であるカスミソウだけでなく、できたての甘辛団子や味おこわ、お土産にはからむし羊羹からじゅうねん入りドーナツなど、全7種を販売した。特に甘辛団子は好評で、雨の中でも多くのお客様にご購入いただくことができた。購入していただいた地域の方の中には、昭和村と関わりがあった方や昭和村に興味をもって質問してくださる方などがいらっしゃり、大変有意義な時間であったとともに昭和村の魅力を少しでも伝えられたかと思う。



写真 23 昭和村の法被（はっぴ）で宣伝



写真 24 カスミソウを販売している様子



写真 25 昭和村の屋台



写真 26 販売品

6. これからの活動

6.1 松山の魅力を発信

松山の魅力について SNS を通じて発信していく。自然環境や農業のことだけでなく、松山地区の住民の皆さんのあたたかさなどをよりアピールすることを重視したい。

6.2 農家マップの作成

松山地区の立地と住民について一目でわかるようなマップの作成を行う。魅力発信とともに松山がどんな場所でどんな人たちが住んでいるかをわかりやすくすることで、移住のハードルを下げるのが狙い。

6.3 他地域の成功例を調査

日本全国で人口増加や高齢化の課題を解決した事例を分析し、松山地区に還元する。

7. 終わりに

本年度から開始した本事業は昭和村松山地区について知り、地元住民の方々との交流を深めた都市となった。8月9～12日に現地調査で松山地区を訪れた際、住民の皆さんははじめて会う私たちを快く受け入れてくださった。郷土料理体験では地元のお母さま方に優しく教えて頂いた料理はとても美味しく自分でも作りたいと思うほどであった。3日目の夜にはBBQと花火をした。その際も地元の野菜を使い美味しいスイカもいただき、住民の方同士も大変仲が良く笑いの飛び交う楽しい空間だった。来年度からは本格的に松山の現状と課題に対しアプローチを行い、集落に貢献していきたいと思う。

最後に、本調査をするにあたり松山地区区長の佐々木様、松山地区の住民の皆様、福島県企画調整部地域振興課の皆様など、多くの方々にご協力いただいた。お世話になった方々に厚く御礼申し上げたい。